

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局

今回は、2013年11月に実施しました第3回カトリック仙台司教区 小教区による東日本大震災復興支援活動アンケートの結果をお伝えします。今後の皆さまの活動や支援の参考にいただければと思います。

また、カトリック野田町教会からカトリック松木町教会「愛の支援グループ」の「初釜」に参加したというご報告がありましたので、ご紹介します。

第3回カトリック仙台司教区 小教区による東日本大震災復興支援活動アンケート結果

◇アンケート依頼：全53教会 回答:50教会（回収率：94.3%）

1. 2011年もしくは2012年、小教区として東日本大震災復興支援活動を行った教会
→46教会（全体の92%）※第1回、第2回に行ったアンケートで「はい」と回答の教会も含む。

2. 2013年、小教区として東日本大震災復興支援活動を行っている(行った)教会
→36教会（全体の72%）



青森県（6教会） 五所川原、浪打、野辺地、八戸塩町、弘前、本町

岩手県（7教会） 大船渡、釜石、北上、水沢、宮古、盛岡上堂、四ツ家

宮城県（15教会） 石巻、一本杉、大河原、角田、北仙台、塩釜、白石、
畳屋丁、西仙台、東仙台、古川、元寺小路、八木山、
米川、亘理

福島県（8教会） 会津若松、いわき、白河、須賀川、二本松、野田町、
原町、松木町

3. 教会信徒の方で、個人(個人グループ)として東日本大震災復興支援活動を行っている方がいる教会 →25教会（全体の50%）

4. 4→6・45通信やニュースレターを、教会内に掲示・設置もしくは配布している教会
→39教会（全体の78%）

*5.活動に関する課題・希望等及び仙台教区の東日本大震災復興支援活動に関しての
ご意見やご感想につきましては、次号ご紹介いたします。



次に、2013年に活動を行っている(行った)36教会の活動内容をご紹介します。活動継続に課題のある教会もございます。実際に訪れて行う支援、ご自宅でも出来る支援など様々な形での支援が可能です。各教会及び多くの皆さまの今後の活動及びご支援・ご協力の参考になればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○2013年活動内容・課題など

青森県

- 五所川原：教会に募金箱を常時設置し、年2回仙台教区本部事務局に送金
浪打：信徒の関係大学からカリタスペースへボランティア派遣
野辺地：①教会入り口に募金箱を置き、支援依頼
②各個人が出来ることを行う(アクリルたわし支援)
八戸塩町：毎月第4日曜日にお祈りと募金
弘前：カリタスペースへりんごを送っている
本町：バザー収益金の一部を仙台教区本部へ送金



岩手県

大船渡：カリタス大船渡ベース「地ノ森いこいの家」の活動支援

◎本格的な復興がようやく始まろうとしている時ですが、ボランティアの数が減ってきています。出来る活動は必ずあります。どうぞ被災地にボランティアさんを送って下さい。

釜石：①NPO カリタス釜石の活動の1つ「代読ボランティア」への参加活動を週1回
(活動人員2名、2013年10月～)

- ②祈り(主日のミサの共同祈願、月命日での祈り)
- ③お茶っこサロンへの参加(地域住民のみなさんとの交流)
- ④教会施設の場所貸し

北上：東日本大震災募金箱設置(～2013年9月終了)

水沢：①共同祈願の一つとして祈り

②カリタス大船渡ベース支援(募金、教会訪問)

③クリスマス献金の一部を送付

④偶数月の第一日曜日をインターナショナルミサの日としている

(大船渡からハルノコー神父様またはギャリー神父様を招き、ミサをする。)

⑤インターナショナルミサの中で被災地や人々の様子を聞き、支援の参考とする

宮古：わかちあいマーケット(食品や生活用品を格安で提供し、生活を支援する)

◎わかちあいマーケットに関して、以下の3つの課題から今後の活動の見通しが立っていない状態。

毎回300人くらいの来場、利用者があることから、もう少し続けて行きたいが、課題点の解決が必要である。消極的協力ではなく、積極的協力が重要、必要となる。

課題1. 活動資金(支援金ストック)が無くなったこと

2. 活動する信徒の士気低下、人員不足

3. 必要な支援であるかの見極め(要望はあるか本当に必要か)

盛岡上堂：①宮古教会へ救援物資の運搬、バザーのお手伝い

②釜石仮設住宅での給食、そば打ち、

③包丁研ぎ、自転車修理、賢治・啄木講話

(2013年4月で一度、中断。再開を検討中)

四ツ家：①釜石・松倉仮設B、C棟でのお茶っこサロン

②宮古市藤原、みなし仮設でのお茶っこサロン

③札幌カリタス宮古ベースの活動支援

④宮古教会のわかちあいマーケットのお手伝い



平賀司教様と信徒の皆さん(大船渡教会)

宮城県

石巻 : 主日ミサの共同祈願時、「東日本大震災被災者のための祈り」を唱えている。

一本杉 : 仙台荒井地区東通仮設住宅町内会におけるボランティア活動
(お茶っこサロン、行事イベント)

*西仙台・畳屋丁と共同で、カリタスジャパン若林サポートセンターとして活動

大河原 : 県南4教会合同行事としてフィリピンの方々との交流会を実施。

角田 : 県南4教会合同で交流会実施。

北仙台 : ①仙台市内3カ所の仮設住宅でお茶っこサロン(鶴巻・高砂・扇町1丁目)
②コーヒー募金を行って支援金としている。

塩釜 : ①塩釜市伊保石仮設住宅の集会所で、味噌作り及びお茶っこ
②仮設住宅に住む被災者個人とお茶っこ(塩釜伊保石仮設、塩釜ガス体育館仮設)

◎支援活動を継続するには活動資金が課題となります。時々、個人や団体から支援金としての寄付金はありますが、定期的な活動資金の援助があると助かります。

白石 : ①県南4教会合同で交流会実施。
②ボランティア活動者へ宿泊施設として教会を提供

畳屋丁 : 一本杉・西仙台と共同で、カリタスジャパン若林サポートセンターとして活動

西仙台 : ①一本杉・畳屋丁と共同で、カリタスジャパン若林サポートセンターとして活動
②石巻市雄勝森山仮設でのお茶っこ(仮設訪問)2013年9月～
③気仙沼へお米を送る活動(会津神父様仲介)

④教会で福島やさい畑さんの野菜販売

東仙台 : ①塩釜市伊保石仮設住宅の集会所での「味噌作り」活動 ※塩釜教会へ協力
②教会で福島やさい畑さんの野菜販売

古川 : 被災地並びに被災地教会の巡礼(原町教会)

元寺小路 : 仙台市内2カ所の仮設住宅でお茶っこサロン開催
(宮城野区港南西公園仮設、宮城野区福田町南一丁目仮設)

◎仮設住宅の方からのご希望がある限り活動を継続する。



八木山 : ①「八木山オリーブの会」としてお茶っこサロン、イベント開催
②南三陸定期訪問
③亘理地区 傾聴サポート

◎仮設側からの終了希望があるまで継続したいと考えるが、課題として、以下の3つが残る。

- 課題1. 参加者のモチベーション
- 2. 教会員の負担継続が出来るのか疑問がある
- 3. 教会の状況・地区割等の影響を受ける可能性がある。

- 米川 : 米川ベースへ司教館を貸している
(聖母訪問会シスター) 月に一度、南三陸町志津川仮設でフィリピン人のためのミサに参加し、物資を含め、支援している。また、カテケージスを行っている。
- 亘理 : ①CTVC、さいたま教区栃木などの亘理地区にボランティアが来た際の支援
②八木山オリーブの会の活動に参加
③お米支援
④荒浜カモメブラザーズの活動支援

福島県

- 会津若松 : 県内自主避難者支援 (支援金、支援物資提供、イベント開催)
(※個人活動) いわき教会「チーム堂根」のイベント支援 (ダルクさんと一緒)
(※個人活動) 会津若松市内の仮設住宅で足湯開催
- いわき : ①内郷雇用促進住宅でのお茶っこサロン、イベント
(傾聴、食事会などのサービス、物資支援、小規模な生活支援)
②被災地企業、お店の商品購入を各地へ情報発信、購入協力依頼・受注
③雇用促進住宅の自治会、子供会への補助
④被災者自立支援と各地への協力依頼。販売、売上金の寄付



- 郡山 : (※個人活動) 富岡町生活復興支援おだがいさまセンターでの活動
(あみもの教室参加、仮設個別訪問、仮設イベント参加など)
- 白河 : 白河みみずくとして仮設住宅での傾聴活動
- 二本松 : 福島やさい畑の「野菜支援」活動への寄付
- 野田町 : 福島市宮代仮設での復興支援活動 ※松木町教会「愛の支援グループ」と共同
- 原町 : ①仮設サロンへのクッキー・パウンドケーキ支援、支援菓子の中継
(寺内第一、牛河内第一仮設)
②仮設への野菜配布 (福島やさい畑と協力して)
(寺内第一・第二、牛河内第一、角川原、友伸グランド、小池長沼東、小池長沼西、西町1,2,3,4仮設)
③仮設での手芸教室開催 (寺内第一、牛河内第一、友伸グランド、西町1,3仮設)

◎布の支援は届くが、縫い物材料 (パッチワークのキルト綿、ファスナー、糸、手芸綿など) は購入しないと揃わない。

松木町 : 「愛の支援グループ」としてふれあい茶の湯による傾聴、イベント
(※個人活動) 「傾聴ボランティアさくら」として社会福祉法人の高齢者施設や医療法人の高齢者施設、常設の傾聴コーナーを設けて活動している。今後、仮設などでも活動したい。また、飯館村から避難して来られた方の集いも開催。

*松木町からは、震災関連以外のボランティア活動についてもご回答いただきましたが、今回は省略させていただきましたのでご了承ください。



福島ブロック会議 (野田町教会)

「初釜」から笑顔へ

カトリック野田町教会 高橋 喜彦

1月18日(土)、松木町教会「愛の支援グループ」の71回目のボランティア活動として、宮代仮設の方々との「初釜」が行われ、野田町教会(以後当教会)の復興支援有志のメンバーも参加いたしました。3回目となる今年の初釜は、集会所ではなく「御倉邸」で行なわれました。

明治32年、東北で初めてとなる日本銀行福島出張所が福島市に設置され、昭和2年に旧福島支店長役宅が福島県庁南西の御倉町に建てられました。寄棟、瓦葺きの木造平屋建て(約100坪)の旧役宅は、平成12年3月に福島市が取得し、現在は「御倉邸」として一般に開放されています。

今回の初釜で、当教会は70名分の味噌汁を作る役目を受け持ちました。朝9時より作りはじめ、10時20分には「御倉邸」に到着できました。既にボランティアの方々は、「御倉邸」の玄関で皆さまをお迎えしておられました。

玄関を入ると真っ先に、正面に貼られた「初釜」の趣向は「笑顔」というポスターが目につきました。そして、参加者の方々が、全員揃って説明を聞いた訳でもないのに、自然に2班に分かれ、整然と初釜が開催されたことには、大変驚き、不思議に思いました。

私は、炉の席のある部屋に1班の皆様をCTVCの漆原さんと共にご案内致しました。そこには一輪ざしが飾ってあり、「松無古今色」と書かれた掛け軸が掛けてありました。茶の道を開かれ、信長、秀吉に仕えた千利休の戦国時代を連想するような気分に襲われました。

炉の席主をつとめられていた鈴木教弘さんは、物静かに茶の説明をしてくれましたが、特に掛け軸の「松に古今の色無し」と言う説明には感銘致しました。

部屋には、全員分の椅子席が準備されており、足の不自由な方にもちゃんと配慮されている優しさを感じました。私は素人ですが、すばらしいお点前であったと思います。一番目のお客さまは自治会長さんでしたが、大変慣れておられる様子でした。2番目の方からは裏の水屋から順次お茶を運んで下さり、美味しく頂きました。

30人が全員飲み終わった後、玄関脇の立礼（りゅうれい）席の部屋に移動し、そこで2回目のお茶を頂きました。そこにもやはり茶花が飾ってあり、掛け軸は、出会いを大切にするという私の大好きな「一期一会」の軸でした。

この席の席主である鈴木キミ子さんが、お点前をしながらお茶の説明をしてくれました。面白かったことは、蓋置の虎溪三笑の説明で、晋の時代、橋を渡らない（世俗に戻らない）と決めていたお坊さんが、2人のお友達と楽しい話を夢中でしているうちに、気がついたときには橋を渡ってしまい、三人で大笑いしたというお話でした。参加されていた皆様は、全員お茶の世界に引き込まれ、満足の様子でした。

今年も昨年のように仮設の方々の何人かの素敵な和服姿がありました。全体が明るい感じになり、いつもの支援とは違った趣を醸し出しておりました。改めて日本文化の象徴である着物を認め直しました。

その後、1班、2班の全員で記念写真を撮影しましたが、この時は皆様笑顔で、日頃の苦勞から解放されているようでした。日本庭園と阿武隈川の景色が、穏やかな雰囲気を作り出してくれているのだなぁと思いました。



そうこうしているうちにお昼の時間になり、昼食会場の部屋に皆様をご案内いたしました。漆原さんの進行で、始めに1月の誕生会を行いました。その後、楽しいお食事を頂きました。仮設の方々は満足され元気を得たように感じました。私が、「次回また仮設の方々が元気になれるイベントを考えたいと思います。本日は誠に有難うございました。」と挨拶を行い、終了しました。

私たちボランティアは玄関の外で仮設の皆様をお見送りしましたが、仮設の方々は「またこんな催しをして頂きたい」と要望され、いろいろなスポットでそれぞれ記念写真を撮影されておりました。大変楽しい時間を過ごされたのでしょうか、名残り惜しそうでした。

私たちは仮設の方々に支援を行っておりますが、逆に皆様から力を与えて頂いているように思います。それは支援が始まってから不思議な力を得ていることにあります。今後共ボランティアの皆様と力を合わせて進んで行きたいと思っております。

